

出土遺物

約1,400年前の竪穴住居群からは、生活に使っていた土器がたくさん「見つかりました。また、西端で見つかった約1,500年前の古墳からもたくさんの土器が見つかりました。

約1,400年前の竪穴住居群から見つかった土器類

土師器(写真1)

土師器は須恵器とは焼き方が違う、低コストな土器です。主に甕が見つかっており、鍋のように煮炊きに使ったようです。

土師器は須恵器と比べると軟らかい土器ですが、熱に強い土器です。須恵器は火にかけると割れてしまうのです。

須恵器(写真2～5)

今から約1,600年前に朝鮮半島から伝わった技術で作られた、陶器のご先祖様ともいえる土器です。のぼり窯で焼いて作られ、土師器よりも作るコストは高い土器です。

竪穴住居から見つかったのは、主にお碗のような形のものが見つかりました。

見つかった須恵器は、焼きが弱いものや火ぶくれして歪な形となったものが目立ちます。

一竪穴住居から見つかった土器類一



- 1 土師器の甕
- 2 須恵器のお碗の蓋
- 3 内側が火ぶくれした須恵器のお碗の蓋
- 4 須恵器のお碗の蓋(内面)
- 5 焼きが弱い須恵器

約1,500年前の古墳から見つかった土器や金属器

土器(写真9・10)

竪穴住居群から見つかった土師器・須恵器と同質の土器が見つかりましたが、時代が異なることもあって、形も異なります。茶碗のような形の坏のほか、脚がくっついた壺や、提瓶という水筒のような形の須恵器が見つかりました。

金属器(写真11)

古墳から見つかった金属器には、太刀があります。残念ながら完品ではありませんでした。また、1,400年前の竪穴住居からは金環(耳飾り)が出土しましたが、その特徴からみて古墳時代の金環と考えられます。何らかの事情で古墳の中のもの、竪穴住居に持ち込まれてしまったのでしょう。

一約1,500年前の古墳から見つかった土器や金属器一



9 脚付の壺 10 提瓶 11 金環

おわりに

横山城遺跡は、背後に構える横山城に関連する遺跡として知られていましたが、今回の調査では古墳や7世紀の集落跡が見つかりました。このことは思わぬ発見でした。集落にはどのような人たちが暮らしていたかは分かりませんが、小規模な竪穴住居が多いことや、仕上がりが良くない須恵器が多いことが注目されます。仕上がりが良くない須恵器はあまり広域には流通しないので、近隣に須恵器窯がある可能性も考えられます。須恵器生産に関する集落というのも可能性の一つとしても良いでしょう。

横山城遺跡発掘調査現地説明会資料

平成25年(2013)11月10日(日) / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

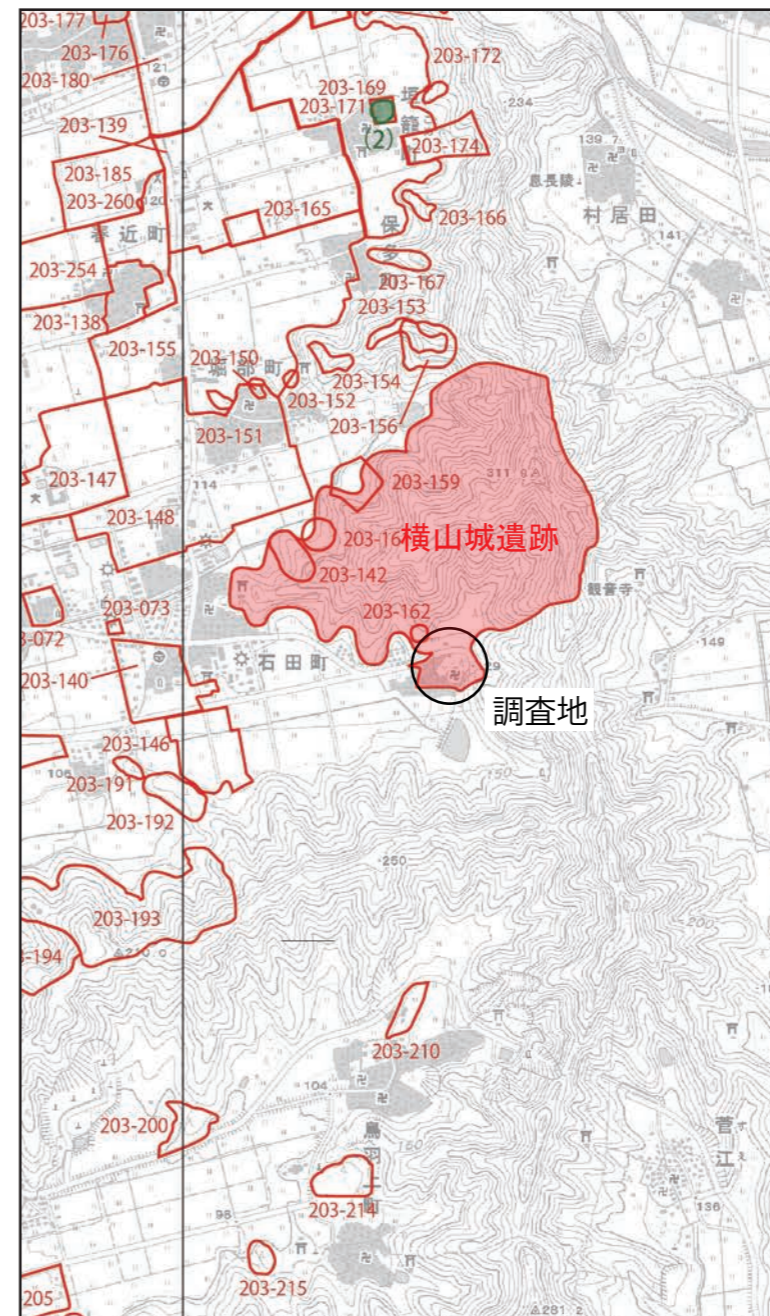
はじめに

■横山城遺跡は、滋賀県長浜市石田町にあり、戦国期の横山城に関連する遺跡として知られていました。

■新観音坂トンネル関係の県道整備工事計画に伴い、公益財団法人滋賀県文化財保護協会は滋賀県土木交通部・滋賀県教育委員会の依頼により発掘調査を実施しています。



横山城遺跡



横山城遺跡の位置

調査の概要

県道予定地内を対象に、発掘調査を実施しましたところ、西端では古墳が、東端では竪穴住居が30棟見つかりました。



発掘調査の様子

古墳は、6世紀(約1,500年前)のもので、当時の土器や鉄の刀などが見つかりました。

一方、東端で見つかった竪穴住居は、狭い範囲に30棟が何棟も重なるように建て替えられています。建てられていた時期は7世紀(約1,400年前)のものであることが明らかとなりました。竪穴住居からは当時の土器などが見つかりました。

調査範囲西端で見つかった古墳



見つかった古墳

調査範囲西端では、6世紀(約1,500年前)の古墳が見つかりました。残念ながら大半は壊れており、底付近が残っただけでした。見つかった古墳は横穴式石室^{よこあなしきせきしつ}という、石を積み上げてつくった部屋に遺骸を納めるタイプですが、石の部屋は失われ、底の石2個が残っている程度でした。

古墳には、死後も生前と同じように暮らしていけるように、日常的な雑器が納められることがよくあります。見つかった土器類もそのような思いで棺と一緒に納められたものと思われる。



横穴式石室の残石



横穴式石室の例(湖南省・岩瀬谷古墳群)

調査範囲東端で見つかった竪穴住居群

調査範囲東端で見つかった30棟にもおよぶ竪穴住居群は、7世紀(約1,400年前)につくられたもので、横山丘陵の麓に集落が営まれていたことが明らかとなりました。この時期の集落跡は、旧長浜市域では東上坂町の柿田遺跡が知られています。



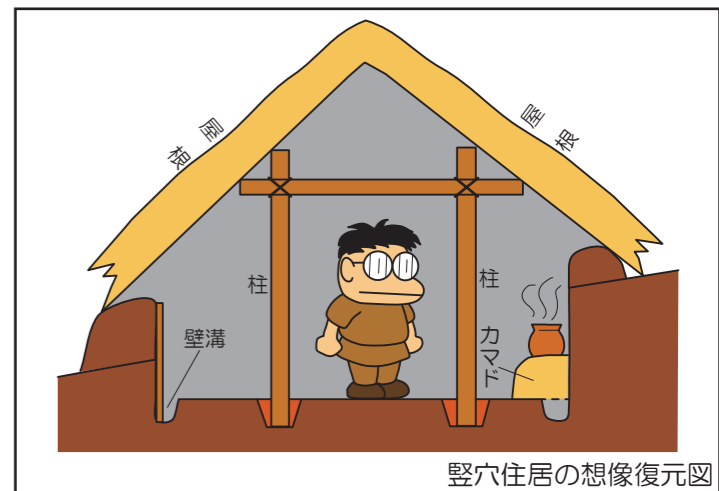
竪穴住居群

30棟の竪穴住居は、いくつも重複したかたちで見つかりました。このことから、同時に30棟が建っていたわけではなく、おそらく同時に建っていたのは数棟で、頻繁に建て替えられたと考えられます。

竪穴住居の構造

竪穴住居は、約15,000年前の縄文時代の初め頃から続いてきた伝統的な住居です。地面に穴を掘り込み、葦や木の枝などで屋根をふき下ろす構造です。きれいな土などで床が貼られたり(貼り床と呼びます)、床の湿気を抜くために壁に沿って溝が掘られます(壁溝と呼びます)。今回見つかった竪穴住居には、カマドや壁溝が作られているものもありました。

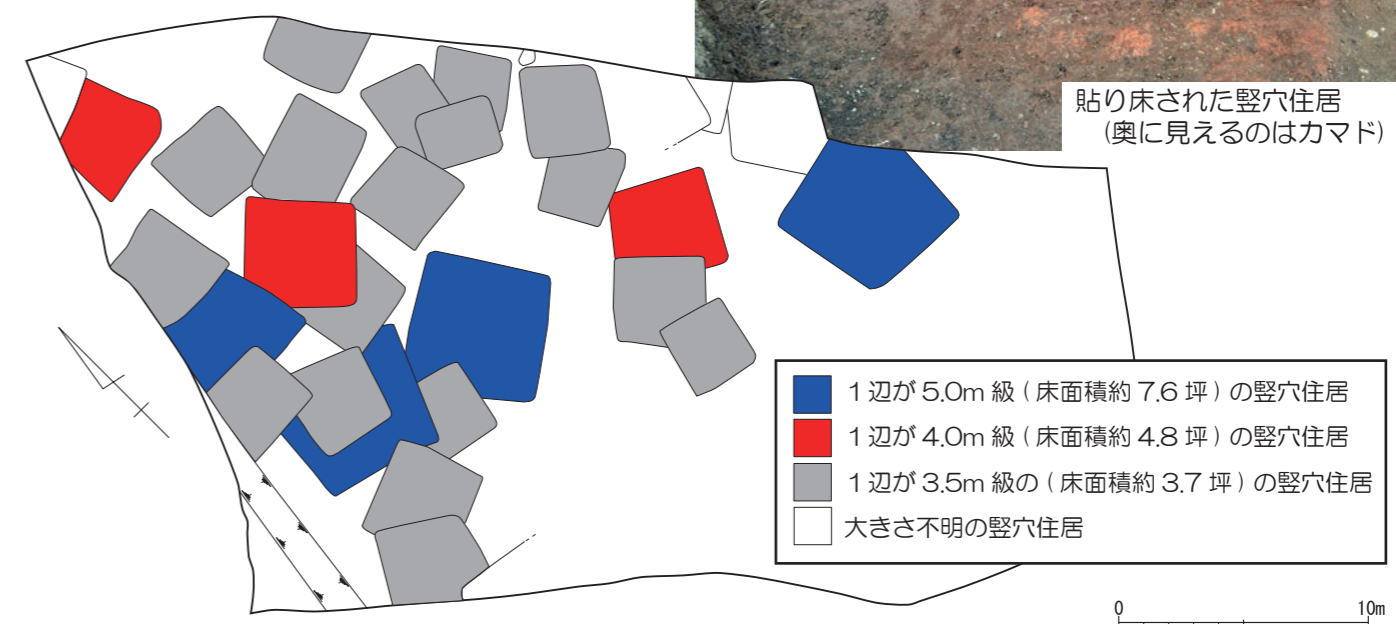
一見すると非常に原始的で不快な家に思えますが、材料が少なく済み、保温性にも優れているので、住居としては一般的でした。



竪穴住居の想像復元図



貼り床された竪穴住居
(奥に見えるのはカマド)



0 10m